

生産者と消費者をつなぎ、信頼と安心の「食」を自宅に届ける

関西よつば連絡会 府南産直センター

時代や環境の変化とともに、遺伝子組み換え、残留農薬、産地偽装、土壌汚染など、「食」を取り巻く環境は深刻化しているという。「関西よつば連絡会」は、1970年代からこれらの問題に取り組み、「安全なたべもの」「自然なたべもの」「添加物を使わないたべもの」「農薬を極力使わないたべもの」に一貫してこだわってきた。現在、同会の会員は4万世帯を超え、関西各地域と広島県の22の配送センターから食品や生活用品を供給している。その活動団体のひとつ、泉北エリアを拠点にする「株式会社 府南産直センター」の代表取締役・渡邊了氏にお話をうかがった。

気軽にはじめた消費者運動の「お手伝い」が事業に発展

「20代の頃に2〜3年、ヨーロッパを旅してエコロジー、オーガニック、コミュニティの文化に触れました。その後、帰国したものの、仕事もなくぶらぶらしていました。そんな時、無農薬や無添加食品を扱っている友人から、手伝ってほしいと言われ、軽い気持ちでこの仕事を始めたのがそもそもの始まりです。」

戦後の日本の農業は、伝統的な集落型から、化学肥料を使用し大量生産するアメリカ型にシフト。有機農業運動や食品公害追放の消費者運動が高まった。これを受けて、1976年「関西よつば連絡会」が発足し、後に渡邊代表も一員として参加。当時、消費者による直接購入が難しかった、北海道「よつば牛乳」の共同購入から始まり、農産物、加工品へと流通ネットワークを拡大した。同会の名前にある「よつ葉」は、ここに由来する。(資本関係はなし)

「もともと主婦が中心に行っていた消費者運動がはじまりで、私たちが流通を手伝うようになって今日に至りました。」安心・安全な商品を供給するのはもちろん、全戸配達、入金金・配送料無料を看板に会員数を伸ばし、配送センターは近畿一円に広がった。そんな中、渡邊代表はのれん分けという形で独立。1993年に地元である泉北エリアを拠点に「株式会社 府南産直センター」をオープンした。

「販売エリアである地元を中心に、大和川以南から和歌山の手前はまだ手つかずの状態。いろんな意味で見込みがあると感じました。」健康食や無農薬野菜などの食品を生産する農家と提携して、地元生産者とのつながりを深めていくと同時に、会員数も口コミで増加。創業当初の400世帯から、現在の3000世帯にまで広がった。

「私たちの基本姿勢は、宣伝をしない。サービス過剰なことをしないこと。そのため、ほとんど会員様からの紹介で徐々に会員数を伸ばしてきました。会員数を急激に増やすと、供給する生産量が追いつかなくなり、どうしても質を落とさざるを得なくなります。質の高い商品を責任もって提供するためにも、賛同してくれる生産者と会員様を大切にすることです。支えてくれるお客様を愛さなければ、愛されません。」



自社工場で作られた、合成添加物は一切不使用の「能勢ウインナー」



土づくりからこだわった熊本県の有機にんじん

自前の農場・工場と各地の生産者から「食」の信頼を提供

「生産・流通・消費を通じて、人と人との信頼関係があってこそ安全な食べものが生み出される。」この理念に基づき、同社の産直活動では、5つの農場(能勢農場、世羅農場など)と9つの食品加工工場(能勢食肉センター、能勢の里ハム工場など)を自前で持つ。さらに、全国各地の生産者や提携農場から供給される野菜や果物、食肉、加工食品を同社の職員が週一回、会員宅の玄関先まで届けている。また、同団体の出資会社である「ひこばえ」では、商品企画やバイイングに力を入れ、生産者と一緒に新しい商品をつくり、販売する活動も積極的に行っている。

取り扱う商品は、メイン商品と同社のオリジナル商品、季節商品を含め



て約10,000点にのぼる。独自の「よつ葉有機」基準に沿って作られた国産の米・野菜・果物のほか、タイの有機バナナやフィリピンの有機マンゴーなど、フェアトレード商品なども扱う。さらに、調味料(味噌、しょう油、砂糖など)、加工品(ソーセージ、総菜、豆腐など)の原料には、可能な限り提携生産者の農産物や水産物を使用し、合成保存料や化学調味料などの添加物を一切使用しない、昔ながらの伝統的な製法にこだわっている。

「約10,000点の商品のうち、5,000点は同社の府南オリジナル商品です。例えば、地元限定野菜のように、いいものでも少量しかできないものもあります。そういった地元ならではの商品やニーズが少ないものなど、会員様のご要望があればお取り扱いしています。」野菜・食肉・卵・牛乳・加工品…、いずれの商品も、原材料の段階から遡って生産者の顔が見える、トレーサビリティがしっかりと確立。まさに、作る人と食べる人の信頼関係の下支えになっている。

失われつつあるコミュニティの再生をめざして

今年で創業21年を迎える同社では、個別宅配のほか、美容・コスメ、自然食品、健康食品、生活雑貨、キッチン家電など、独自の目線でセレクトしたWebショップ「Beauty & Healthy ナチュラル」(全国発送可)をオープン。

さらに、急速な高齢化などを受けて、高齢者さらに子育て中の主婦といった買物難民などを生んでいる地域への移動販売を実験的に行う予定という。

渡邊代表がこの仕事を続けてきたのには、ひとつの思いがある。それは、日本で失われつつあるコミュニティを大切に守り続けること、または再生させたいということ。渡邊代表はいう。「インターネットの世界には、1円でも安く買いたいお客様たちがたくさんいます。それはそれでいいと思うのですが、そこに人とのつながりは感じられません。同社の個別宅配には、生産者、流通者、消費者の人とのつながりがあります。生産者と一緒に作り、世の中に発信していく。決して儲かる仕事ではないけれど、人を元気にする、または感謝されるビジネススタイルだと思います。そういう意味では天職を見つけたのかもしれない。コミュニティを切り離して、ビジネスは成り立ちません。失ったつながりを再生・復活できるよう、これからもさまざまな取組みを行っていきたくと考えています。」



同団体の活動のきっかけにもなった北海道「よつ葉」の牛乳



種子島のさとうきびをしぼった、鉄分・ミネラル豊富な双目砂糖

関西よつば連絡会
株式会社 府南産直センター
代表取締役 渡邊了

〒590-0132
大阪府堺市南区原山台1丁目14-12
TEL : 072(296)3050
FAX : 072(290)2289
<http://www.yotuba-funan.com>
<http://www.rakuten.co.jp/natura-l-goods/>(Webショップ「ナチュラル」)



【事業概要】無農薬・有機栽培農産品、水産品、乳製品、無添加加工品、環境循環型雑貨などの個人宅配、およびWeb販売